

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 26 年 12 月 12 日（金）

地区 二見小学校区

会場 二見老人福祉センター

参加者数 19 人



《質問・意見》

障がい者の暮らしについて、近隣の市町よりも遅れていると考える。雇用やグループホームが進んでいない。障がい者の雇用など、障がいがある子供が将来安心できるようなまちづくりをお願いしたい。

《回答》【市長】

近隣の市町と比較すると、弱い部分もあります。結果を出すため、まず、今回、市の組織強化として高齢・障がい福祉課を組織しました。雇用に関しては、市としても努力しているところです。今年、市内で頑張っている企業を回ったところ、課題は企業と人材のマッチングをどうするかであると痛感しました。ハローワークと協働して、企業と働きたい人のコーディネートをするにあたり、意識共有、情報共有から始めていきたいと思っています。施設に関しては、多気町などにありますが、1つ伊勢でも整備に向けての動きがあります。県への申請をクリアして、国の段階に入ったところです。

《質問・意見》

2年前に引越ししてきたが、二見地域は公共交通機関がものすごく弱い。車が無いと、ラパーク等がある23号沿線に出られない。

《回答》【市長】

公共交通機関は不便であると思います。おかげバスを平成19年から運行しています。市の単独事業で8千万円くらいかけていますが、空気を運んでいるのかとの意見もあり、便数を増やしたいが増やせないジレンマがあります。民間企業のバスは採算が合わなければ廃止になります。このことは、民間企業であるため仕方が無いかなと思います。我々がどのようなサポートをできるかが鍵になってきます。

沼木地区では、三交バスの路線廃止のため、高齢者の住民は病院・買物に行けない状況が生まれました。そこで、バスを通すため、アンケートをとって検討していただきました。

最終的に行政はお金の面でサポートして、地域で自主運行バスを実施しています。ぜひ皆さんに利用していただきたいですし、それぞれの立場でバス存続のために協力いただければと思っています。また、主婦の方が利用したい時間等があれば言っていただければ、ダイヤ改定のときに考慮していきたいと思っています。公共交通機関は重要であり、国でも交通基本法ができました。交通が社会基盤として位置付けられたことで、地方としても取組がやりやすくなりました。

《質問・意見》

二見小学校区でJ R通学をしている地区がある。二見浦駅が無人のため、列車が遅れても何分遅れている程度のことしか放送が入らず、遅れている原因などの情報が無くて困っている。最近ではJ Rを使う観光客も増えている。

《質問・意見》

J Rと近鉄の時間が合わない。J Rが遅れて近鉄への乗換に間に合わないことがある。そのため、子供を伊勢市駅まで送っている家もあり、不便を感じる。おかげバスも、近鉄と時間が合えば良いのだが。

《回答》【市長】

J Rに伝えます。

《質問・意見》

内宮と二見を直通でつなぐ交通の便を設けられないか。

パーク&バスライドについて、外宮と内宮はあるが二見は無い。どうにかできないか。

《回答》【市長】

「CAN（キャン）ばす」は通っていますが、担当に伝えます。パーク&バスライドは一度正月にチャレンジをしたところ、実績があまり良くありませんでした。タイミングを見て検証していきたい。

《質問・意見》

アリーナまで行けばCANばすに乗れるが、内宮・鳥羽方面にしか行ってくれない。例えば、伊勢病院に停まれば、お年寄りが伊勢病院に行けるようになって便利になると思う。おかげバスは本数が少ない。

《回答》【市長】

フリー降車・乗車できればと思います。今すぐに出来ることではありませんが、知恵を絞りたいと思います。

《質問・意見》

アマチュア無線の団体と市の間で災害時の協定を結ぼうと提案しているが、市の動きがわからない。松阪と鳥羽は結んでいる。いざという時に利用できるようにしたい。

《回答》【市長】

協定を結んでいただけるのなら準備させていただきます。団体メンバーの市議会議員と相談して進めます。アマチュア無線は医師会もしています。いろいろな研究をしたい。

《質問・意見》

昔に比べると住みよいまちになったが、今、ふるさと未来づくりの取組を考えるとと言っても、アイデアが浮かばない。今回のような場をつくり、役所が住民の意見や考えを吸い上げて、他市などの良いところを学んですれば良いと思う。市の職員に勉強してもらって、リーダーシップの発揮とアイデアの投げ掛けをしてほしい。我々も協力する。良い世の中を残したい。

《回答》【市長】

人材が全てだと思います。新しいことが求められていますが、先進地を見て学ぶようにしています。全国を見て、地域に持って帰って、地域の皆さんに伝える。地域によっては、市の担当が行うというより、自分たちで行うところもあります。地域の皆さんの状況・立場に応じたサポートをしていきたい。

《質問・意見》

学童保育があるのはとてもありがたい。しかし、3年生で終わりになるということで、4年生以降も預かってほしい。障がいがある児童の場合、4年生以降で下校の安全の確保がむずかしいということもある。民間施設はあるが、預かってもらえる施設が全体的に少ない。また、預かってもらえる日数が少ないため、利用できる日数の確保もお願いしたい。

《回答》【市長】

作業所の定員を拡大できないのかということも含めて、一つの協議事項として預からせていただきたい。

《質問・意見》

まちづくりの関係で毎月1回委員会をしている。課題に対しては、市役所だけでなく自分たちでできることもある。高齢者の見回りは、これまで民生委員や自治会の役員で行ってきた。災害時の声かけについて、隣近所が一緒になって声かけをしていくことが大切である。川端町では、支援制度を作ってやっていこうと話している。民生委員や自治会の役

員だけではできない。サポートが大切である。互助・助け合いを作り上げることが大切である。システムを作り上げてサポートするのは、行政の立場では時間がかかる。自分たちで作り上げて、そこで行政とキャッチボールできたら良い。災害時における危険箇所をチェックし、どの道を通るかの安全マップを作っている。一つひとつやっけていかなくてはならない。お互いにできる範囲で知恵を絞ってしていかなくてはならない。

《回答》【市長】

これまでの行政が全て行うという時代から一歩脱却する時期に来ていると感じています。様々な形の市民活動を時代に合わせて活かしていくことが大事であり、小さな成功を積み重ねることが大事であると思います。

《質問・意見》

雇用主として、障がい者雇用はしたい。ただし、人によって仕事の内容やできる程度の違いがある。行政も、就労希望者の状況などを綿密に調べた上で、相談に来てもらえると雇用する側としてやりやすい。

まちづくり組織は、良いことだと思う。しかし、区長の仕事をしていて、まだまだ住民の中ではまちづくりの考えが弱く、すれ違いがあると感じる。なかなか理解が得られない。

人口減少の下、行政サービスの低下は当たり前と思う。一生懸命していることもわかる。施設を作れば維持していかなければならないので、維持についても精査が必要である。

《回答》【市長】

公共が障がい者雇用をコーディネートするのは大事であると思いますので、我々もこれから方法を研究していきたいと思っています。

まちづくりは、区長が大切な役割を持っており、苦勞していただいています。まちづくりの進め方について、矛盾点があればご指導いただきたい。

財政については、貯金が平成 18 年に 60 億円ほどでしたが、今は 200 億円ほどに伸びてきています。一方、借金は 490 億円くらいありますが、国からの交付税を差し引くと実質 200 億円くらいです。昨年「公共施設マネジメント白書」を作りましたが、道路・橋を除いて年間 40 億程度の維持費が必要になります。このような中、施設は必要最低限のものを残していくことになるのではないかと思います。しかし、一般的には総論賛成、各論反対になることが多く、いろいろな議論をしていかなくてはなりません。小学校・中学校の再編をしている中、どうやって今ある施設を回していくかがポイントになります。

《質問・意見》

CANばすは、二見のまちを素通りする。町内で停まるようになれば、使えるようになる。観光客向けのバスであっても、市民が利用したいということを市として積極的にアピールしてほしい。

平成 45 年の遷宮に向けて、地域ごとの具体的なイメージはあるのか。二見として、小俣

として、それぞれ、地域性は様々であると思う。自分たちはまちづくりのプロではないので、全部任せられてもランドデザインは作れない。市はどのようなイメージを考えているのか。

《回答》【市長】

将来のまちについて、成長的ランドデザインは描きにくい時代であると思います。まずは、子供が減って高齢化が進行します。地域の人口構造に合わせて、耐えうる公共サービスができるよう準備したい。こここのところ5年間で基礎的な部分の準備ができたと思っています。少子化対策、定住促進の部分から、スタートしていきたい。